

支部訪問 (3) 伊勢原支部

弘報部 黒川 鈴谷

9月22日(月)に伊勢原を訪ねて、OBの方三人とお会いしました。前回1月末に川崎宮前支部の支部長さんにお話を伺ってから、いろいろなことに取り紛れて、はやくも半年以上経ってしまいました。そこで今回伊勢原支部にお願いして、やっと三回目の支部訪問が実現しました。

伊勢原支部は支部長が現職の校長さんでお忙しいので、現職時代に支部長を経験されたOBの方などにお集まり頂いて、支部のお話をいろいろ伺いました。以下はその時に伺ったことを記録したものです。
(平成26年10月記録)



左から、長田・細谷・石黒の各氏

座談会 伊勢原支部の活動を語る

出席者 おさだ ひさお 長田 尚夫 (昭和41年卒)

石黒 利昌 (昭和49年卒)

きよし 細谷 毅義 (昭和51年卒)

司会 弘報部 黒川 鈴谷 (昭和35年卒)

黒川 今日にはまた夏に逆戻りしたような暑い日差しの中をお集まり頂きまして、ありがとうございます。細谷さん石黒さんのお二人は伊勢原の支部長経験者とのことですが、支部長に在職されたのはいつ頃のことですか。

細谷 私が平成20年から21年まで、そして石黒さんが平成22年から23年までです。長田先輩は支部長経験者ではありませんが、平塚支部から伊勢原の教育長として着任され、私達後輩を指導して下さいました。

長田 私は平塚で退職したので、もともとは平塚のOB会員なのです。定年退職後に伊勢原の教育長に着任しました。それで伊勢原支部でも支部の会合に出やすいように、OB会員になったのです。その間の経緯については、後で必要があればお話しします。

黒川 分かりました。それではさっそく伊勢原支部の現況をお聞きしましょうか。現在市内の小・中学校の数はどのくらいで、そこに会員はどのくらいいるのですか。また、OB会員はどのくらいいますか。

細谷 小学校は10校で校内会員が31名おり、このうち管理職が10名です。10校の職員数は221人ですから率で言うと14%ほどになります。中学は4校ありますが、会員数はずっと少なく5名で管理職は1人もいません。その他は教委に5名、市内の私学に3名います。ですから支部の校内会員の総数は44名です。校外会員は50名います。その中で37名が市内在住で、13名が秦野・厚木・平塚など市外に住んでいます。



黒川 私の所属する横浜の磯子支部は、小学校 16 校、中学校が 6 校で、校内会員の総数は 73 名ですが、今年度国大新卒の人が小学校 2 名中学校 1 名のわずか 3 名しか着任しませんでした。伊勢原支部では国大の新卒者が何名着任しましたか。

長田 私は常任理事で経理部に所属しているのですが、必要があって中ブロック(平塚・秦野・伊勢原・中郡)の会員の現員調査をしました。小・中あわせて 88 校あり、



小田急伊勢原駅

校内会員の総数は 278 名です。その中で、今年の国大卒の新任は小学校 3 名、中学校 1 名の僅か 4 名に過ぎません。その内の小学校 1 名が伊勢原支部です。

黒川 そうすると中ブロックの会員数は磯子支部の約 4 倍ですから、入ってくる新人の数も磯子の 4 倍の 12 名いないと勘定が合いませんが、磯子支部とほとんど変わらない 4 名なのですね。これはちょっと厳しいですね。横須賀支部でも川崎

支部でも、この新人会員の減少が問題になっているのですが、これは友松会全体の大きな問題ですね。これについては後ほどまた話し合ってみようと思います。ところで私の居る横浜では児童数の減少に伴って、高度成長期に増加した学校の統廃合の問題があるのですが、伊勢原ではそういう問題はありますか。

細谷 伊勢原の中学校 4 校はもちろん戦後の学制改革に伴って出来たものですが、小学校 10 校のうち 6 校は戦前からある古い学校で、あと 4 校は市域の拡大に伴って出来たものです。今のところほどの学校にも、児童・生徒数の減少に伴う統廃合の問題はありません。

黒川 それは良かったですね。児童・生徒数の減少による学校の統廃合はやむを得ないことなのですが、在校生は無論のこと卒業生やそこで仕事を

した思い出のある教職員にとっても、悲しく残念なことですからね。それから忘れないうちに聞いて置きたいことが有ります。それは先日お送りした「磯子支部だより」13号に載せた「大山事件」のことです。昭和20年末から21年の春にかけておこったこの事件は、ここ伊勢原支部が地元なのでぜひ伺いたいと思っていました。事件の概要については、先日お送りした支部だより13号をお読みいただいたと思いますので説明はいたしません。支部の会員の中にこの事件についての記憶が有る方はおられないでしょうか。

細谷 事件の関係者である白鳥 宏さんがお書きになった『大山さんと共に百年 相模の村村』という本は私も持っています。その本の最後の方に「阿夫利神社と神道指令」と題して大山事件のことが載っていますので、概略については私も承知しております。しかし実際に事件を知っている人は、いろいろ調べましたがいないようです。



伊勢原駅前にある大山阿夫利神社の大鳥居

黒川 何しろ今から 70 年も昔の昭和 20 年の 11 月から 21 年の 3 月にかけて起こったこ

とですから、当時 20 歳の人でも現在は 90 歳になっているはずで、だから実際に事件を見聞いた人はもういないかもしれませんね。

細 谷 OB 会員の中に 91 歳の方が居られます。昭和 17 年に神奈川師範を卒業されているので、もしかしたらと訊ねたのですが卒業と同時に陸軍に徴集され、最後はシベリアで何年か抑留されてやっと戻ってきたので、事件の起こった時にはいなかったとのことです。

黒 川 そうですか。実際に事件を見聞いた人がもういないのも当然でしょうね。それが分かっただけでも今回伊勢原に来た甲斐があったと思います。ありがとうございました。

ところで先ほど長田さんが言われた平塚と伊勢原と、二つの支部の OB 会員になっているというお話ですが、普通はそういうことはしませんね。なにか理由があったのですか。

石 黒 その頃の伊勢原支部の中に、友松会を脱退しようという動きがあったのです。

黒 川 そう言えば誰かから聞いたのですが、5~6 年前に伊勢原支部が友松会から抜けるという動きがあったそうですね。

長 田 いやそれは 5~6 年前でなく、私が退職した頃ですから今から 10 年くらいも前です。その頃私は平塚に勤務していたのですが、定年退職と同時に縁あって伊勢原の教育長になりました。その時に平塚の友松会の先輩から「しっかりやってくれ」と言われました。「もちろん仕事はしっかりやりますよ。」と言ったら、「仕事のことじゃない。いま伊勢原支部が友松会を抜けると言って問題になっている。それを何とかしろ。」と言われました。

黒 川 成る程、そういうことですか。それで長田さんは何と返事をしたのですか。

長 田 私は「伊勢原のそんな事情は聞いていません。だいたいそれは私の仕事ではありません。」と答えました。

黒 川 伊勢原へ来たら、実際にそんな動きがあったのですか。

長 田 伊勢原に来てみると、国大の先輩や後輩がたくさんいるのですが、確かに「友松会を脱退しよう」という空気がありました。そこで私は「いくらなんでも脱退というのは穏やかでないし、同窓会の脱退なんて聞いたこともない。一度そういうことをやってしまえば後で引っ込みがつかなくなるから、辞めてしまうのではなく、しばらく休会ということにしたらどうか。」と言いました。

黒 川 なるほど、少し考える冷却期間を置くということですね。

長 田 そこで支部の役員が集まって話し合いました。その結果、脱退するのは止めようとなったのです。

黒 川 それは良かったですね。

長 田 私は伊勢原では教育長という立場でしたから、友松会の総会などには招かれました。でもそれでは支部の会合に出席発言出来ませんので、それが出来るように、



大山神社 薪能の大看板

平塚だけでなく伊勢原でも OB 会員にさせていただきました。

黒川 なるほどなぜ平塚と伊勢原と二つの支部の校外会員になっているのか、良く分かりました。

細谷 長田さんが伊勢原に来られたことで中学の校長が支部長になるなど、支部が活性化しました。私が支部長の時に、新春の集いで「伊勢原支部はまた蘇えりました。」と挨拶したことが有ります。

石黒 今では支部の総会・懇親会も 20 人ほどで楽しくやっているね。

細谷 実は伊勢原支部で、この脱退問題が出て来た背景があったのです。

黒川 それはどんなことなのですか。

細谷 当時、教科等の研究会を全県的に束ねる組織があったのですが、任意団体であるその組織に、会費を払って参加するのはおかしいという意見がありました。



商店街の屋根の上に見える 霊峰大山

その意見の延長上に、友松会に会費を払って参加することの是非の議論が出て来たのです。

黒川 その考えはある部分では分かりますが、友松会のような同窓会と、参加不参加が自由な団体と比べるのは、ちょっと性質が違うでしょう。

長田 そうなんだけれども、一般の特に若い人の中には「友松会に入っていて、どんなメリットがあるのか。」という根強い疑問が今でもある。だから我々先輩が、そういう疑問に応える姿勢を持たなければならないと思う。

黒川 最近では、若い先生と先輩との交流や若い先生同士の交流の場が、少なくなっているようですね。私達の若い頃は同じくらいの年輩の者が夕方から職員室に集まって、酒を飲みながらいろいろなことを語り合った。その話の中から、先輩に教えられることも多かった。しかしいまや校内での飲酒喫煙などは考えられませんからね。

長田 確かに今の世の中の様子、窮屈で不自由な面があるかもしれない。でも現職の時に職場の先輩が、「教師の世界はこうなんだ。」と語ってあげることが大切なのです。そういう経験の中から、同窓であることの良さを感じ取ることが出来るでしょう。こういう経験をしようとする気風が薄れつつあるのは、先輩の責任です。

石黒 そういう先輩と後輩との交流を、友松会の枠をこえてそれ以外の人も巻き込むようになっていけば、とても良いですね。

黒川 本当にそう思いますね。ところで先ほど問題になっていた、国大新卒者の採用が少ないという問題ですが、この状態が続くとやがて友松会の組織が崩壊に瀕する大変な問題なのですが、どうしてこうなってきたのでしょうか。またどうしたらこの問題を解決できるのでしょうか。もちろんこれは伊勢原支部だけの問題ではないのですが、参考までにご意見を伺いたいと思います。

細谷 一つの理由としては、京浜商工業地帯に面しているという国大の立地条件の良さから、卒業生が教職以外の分野に就職してしまうということをお聞きしますね。

黒川 聞くところによると、教育系の大学の中では国大の教育人間科学部は全国トップレベルで、優秀な学生が全国から集まるとのことです。それ自体は良いことなのですが、いろいろなところから集まった学生さんが、教職に就くときには故郷に帰ってしまうということがある。まさか故郷に帰るのを駄目とは言えませんからね。私の知っている国語専攻の学生も、今年故郷の山梨で就職しました。

石黒 国大を受験するにはセンター試験を受けなければならないから、受験科目が限られている私立大学に比べて、受験生は大変なのですね。

黒川 友松会が地元の高校に働きかけて国大を受験する生徒を増やすとか、或いは国大の教育人間科学部に働きかけて、卒業後は神奈川県に就職するという条件付きで受験生を別枠で採用するとか、なにか良い手はないものでしょうか。

長田 どの様な方法をとるかはいろいろ意見が有るでしょうが、どうしたら学生さんたちが地元に残ってくれるかを大学が考える、それを考えるのも大学と地域との大切な連携でしょう。

黒川 国大のある先輩から聞いた話なのですが、卒業生が地元に残るようにするためには、教育学部を過去のある時期に国大から分離独立させ、県立の教員養成大学を作るべきだったというのですが。

長田 確かに昔、そういう話がありました。厚木の森の里に神奈川県の教員養成大学を作ろうという設置期成会が出来、県下各地の教育長が賛成して候補地を見に行ったりされました。昭和47~53年頃のことです。



相模原校外から大山を望む

黒川 その話がどうして消えてしまったのかは分かりませんが、今の神奈川県にはとても県立の大学を作るお金は無いでしょうから駄目ですね。今の国大当局と連携していく他はないでしょう。

細谷 高木学部長さんによると、「地域に密着して県内の教育に貢献する」というスローガンでやられているようですね。平成28年には教育系の大学院ができるのですが、大学としてはそこから突破して将来の展望を描きたいのでしょうか。

長田 大事なことは、大学院が出来た時にその教官としてどんな人を連れてくるかです。出来れば県内出身の人を連れて来てほしい。自分の郷土でなければ本当には神奈川県の教育を考えてくれないでしょう。

黒川 県内に就職する国大出身の学生が増加しつつあるのか、それとも減少傾向なのか、その傾向は将来的にも続きそうなのかどうかを、友松会全体で全県的に調査し分析すべきだと思います。

最後に一つお尋ねしたいのですが、伊勢原の場合は教員が異動する場合、その異動の範囲は原則として伊勢原市内の異動ですか。それとももう少し広く、中教育事務所の管内ですか。

細谷 伊勢原に勤務する教員は、原則として伊勢原の中で異動します。

黒川 いやあ、それは羨ましいですね。だから支部が纏まっているのですね。伊勢原市の中で異動していれば、長い間にはお互いに良く知っている、或いは何となく知

っているという関係になるでしょう。そういう所では友松会の活動もやりやすいだろうと思います。伊勢原支部を訪ねて話を聞いていると、人と人の触れ合いの温もりを感じます。

石 黒 そうですね。支部内の会員同士にはそういう親しみとか連帯感が有りますね。OB会員もほとんど市内に住んでいます。

黒 川 ところが私の所属する横浜ブロックでは18支部あり、その中のどの支部にも異動する可能性があります。私の場合は初任の時代から退職までに、四つの区を異動しました。つまり友松会でいうと四つの支部を渡り歩いたのです。ですから支部内の仲間と親しくなる暇もないのです。これは横浜の支部の活動にも影響していると思います。この事の解決策としては、隣り合った支部の会員同士が、OBはOB同士、現職会員は現職同士で交流を深め、理解を深めることが大切だと思います。隣同士だけでなく離れたブロックの支部とも交流をし、刺激し合うと言うことが大切だと思います。そういうことを友松会がしかるべき組織を通して会全体の体制として取り組んでくれると良いのですが。



伊勢原市の市章

最後の方は自分の支部の愚痴のようになってしましまして、申し訳ありません。今日は伊勢原の皆さんとお話出来て、とても楽しかったです。同窓生にこんな人たちがいたのだと思い、今まで知らなくて損したなと思いました。今日だけでなくまた機会がありましたら時どきお会いして、親睦を深めたいと思います。本日はありがとうございました。(H.26.9.22)



伊勢原市花 桔梗

あと書きにかえて 弘報部 黒川鈴谷

伊勢原で話を聞いた三人のうち石黒さんは全くの初対面でしたが、後のお二人も今年度の総会でちょっと話をしただけで、ほとんど初対面同然でした。ところが時間と共に何となくテンポが合って来て、話が弾みました。これが同窓生と云うものだと思います。

考えてみると、国大を同じ学年で卒業していても学科が違えば、サークルでも一緒にない限りほとんど交流が無い。卒業後は横浜・川崎・相模原・県下と勤務先が違えば、ほとんど人事交流もない。従って職場で知り合うこともない。こんなことでは同窓意識も育ちようがないのです。互いに相手を知らないのですから。年に1度か2度の総会や新年会で、ほんの短時間顔を合わせるだけでは、良く知ることは出来ません。

その点で、昔の師範時代は同窓意識を育むのには実に適した環境でした。だからと言って今を昔に戻すことは出来ません。ですから我々の採るべき道は、他のブロックの支部のいろいろな同窓生と、機会あるごとに出来るだけ親交を深める以外に無いと思います。

今回もほとんど初対面の人と話をしたのですが、話しているうちに「同窓生の中にはこういう人もいたのだ。もっと早く知りあっておけば良かったな」と思いました。私の場合は磯子支部の仕事や弘報部の仕事をする過程でそう云う経験をしているのですが、仕事上の必要だけでなく違った地域・違った支部の同窓生ともっと交流する機会を作るべきです。友松会の組織として、そういう交流の活動を進めてくれると良いのですが。

